

## 私の将来の夢

御油小・6 大野 彩葉

「将来の夢は何ですか。」

小さいころの私は、「ケーキ屋さん」、「花屋さん」、「アイスクリーム屋さん」と答えていました。でも、今は「産婦人科医」と答えたいです。

生い立ちについて、学校で勉強することがありました。家でも、父と母から産まれたときの写真を見せてもらいながら、様子について話してもらいました。私は、そのときから、赤ちゃんが母親のおなかの中で育ち、産まれてくることが不思議に思え、素敵なことだと感じ、興味をもつようになりました。

母は、私がおなかの中にいるとき、そして産まれるとき、とても大変だったと話してくれました。母は、仕事をしていただけ、体への負担が大きく、仕事を辞めて、家で安静にしなければならなかったそうです。母は、初めての出産で分からないことばかり。

「安静にしなければいけない。」

と、お医者さんに言われたのを、とてもびっくりしたと言っています。私も驚きました。私が母のおなかにいることで、今までのように動けなくなってしまうなんて考えもしませんでした。母は、そんなことを思っていなかったようで、悲しくなったそうです。

「体は食べ物で作られているよ。」

「赤ちゃんは、お母さんの食べたもので作られているよ。」

この言葉は、母からよく聞く言葉です。私は、「当たり前だけど、考えたことないよ。」

と、言ってしまった。母は、安静にしなければならなくなったとき、自分の食べ物について考えたと話してくれました。栄養をきちんと考えた食事はとても大切で、おなかの中の赤ちゃんの目、鼻、口、顔の形、心臓など全てを作っていると考えると、「どきっ」というしよげきがありました。

母は、食事について勉強したそうです。三食きちんと和食を中心にとり、体調のよいときは、家の近くを散歩したそうです。病院に行けば、体重と血圧、尿たんぱくなどを調べてもらったそうです。そして、おなかの中の赤ちゃんの様子も見せてもらったそうです。赤ちゃんの姿を見るのがとても楽しみだったと話してくれました。私も写真を見せてもらいました。大きくなってくると、頭の形が分かるし、鼻や手、足もはっきりと見えました。

「これ私。」

思わず、聞いてしまいました。何とも不思議です。おなかを切っているわけでも、カメラをおなかに入れてるわけでもないのに、ちよう音波でおなかの上からでも中の様子が分かるなんてすごいと思いました。まるで魔法のようです。

私は、七月七日の夜おそくに産まれました。本当は八月が予定日だったそうです。急におなか痛くなり、出産が始まったそうです。父も母も準備はできておらず、祖父も祖母もみんな大あわてだったそうです。予定日よりかなり早かったため、大きな病院へ運ばれ、出産したそうです。母は笑って、

「彩葉が。パパやママに会いたがっていたんだね。」

と、話していました。私も一緒になって笑ってしまいました。

七月七日。私が産まれた日は、大雨でした。翌日が梅雨明けだったそうです。父も母も、

「彩葉の誕生が家族に明るい光、幸せをまい込ませるような梅雨明けだったよ。」

と話してくれて、とても幸せに感じました。

一か月も早く産まれた私は、色々な検査を受けたそうです。身長も体重も小さく、本当に心配したそうです。NICUという新生児集中治りよう室に入っていたそうです。初めて聞くこの言葉を調べてみました。一人一人、保育器の中に入り、赤ちゃんにはたくさんの管がつけられていて、二十四時間体制で管理されているとのことでした。

「私もこんな感じだったの。」

と、父と母に思わず聞いてしまいました。父と母は、写真を見せてくれました。

「うわ、本当に私なの。」

体は小さいし、鼻や口、手にも足にもたくさんの管や装置がつけられていました。母は、無事に産まれてきてくれたことにはほっとしたけれど、保育器に入っている私を見ると、つらく思えたそうです。

それでも、何の異常もなく、母乳を飲んで、体が大きくなり、体重が増えていったので安心したそうです。母は言います。

「何事もなく、無事に生まれてくることは当たり前じゃないんだよ。とても幸せで、ありがたいことなんだよ。」

その言葉を聞いてはっとしました。確かにそうです。毎日の生活でも、家族がいて、みんなで笑い、ご飯を食べ、お風呂に入り、ゆっ

くりと眠れていることも当たり前のようにだけど、そうではないんだと改めて感じました。

自分の生い立ちを知ってから、赤ちゃんのこと、にん婦さんのこと、それに関わる病院の先生のが気になるようになりました。

私が早く産まれて、母が大変な思いをし、苦勞したこともそうだけど、赤ちゃんが誕生するということは、とても素敵なことだと思います。母は、保育器に入っている私を見ては、

「早く大きくなってよ。早く管が取れるといいね。痛くないかな。」

と、声をかけていたそうです。そんな母に、助産師さんやお医者さんがいつも、

「元氣だから大丈夫だよ。大きくなっているからね。おっぱいたくさん飲んでくれるから力がついてきているよ。」

と、励ましてくれたそうです。母は、この言葉に救われたそうです。

そんなことから私は将来、にん婦さんや出産に関わった仕事になりたいと思うようになりました。産まれてからのケアだけでなく、にん婦さんの食事から運動、睡眠を指導し、心のケアもできる医師になりたいと思います。